

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月27日

事業所名

こどもセンター かおるおか

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や特性に応じて日常生活動作を行う専門スペースがある。 ・広さと高さを十分に確保した「うんどうのへや」、落ち着いて活動できる療育スペースなどが適切に設けられ、雨の日でもこどもが思いきり身体を動かせる。 ・情緒的な配慮が必要なこどもには、落ち着くスペースが用意され、自然なこどもたちの姿が見られる。 	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・基準を順守し、さらに必要な配置体制を組んでいる。 ・療育支援を行う職員は、基本の資格者に加え、公認心理師、看護師資格保持者などが複数勤務している。 ・こどもやご家族とともに暮らしながら、阿吽の呼吸、以心伝心で互いの支援を理解して動くことも多い。 	
	3	療育空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、一人ひとりの特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達などへの配慮が適切になされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・各部屋の方向や順序がこどもたちにわかりやすいように設計されている。 ・豊かな自然に囲まれた立地を生かし、四季の掲示物は実物で表現する。 ・教材は、必要に応じて配置し、視覚的な情報を整理した空間をつくっている。 ・アセスメントに適した構造だと感じる。 ・静かな時間が保てる空間も選択できる。 	
	4	療育空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもたちの活動に合わせた空間(外活動を含む)となっているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃場所ごとの計画を立て、毎日の療育終了後に分担して清掃している。 ・感染予防のために必要な用品は、使い捨て用品を使用する。 ・手拭きペーパーひとつとっても、療育的な観点から複数の種類を用意するなど、過敏なこどもへの配慮も行っている。 ・アルコール消毒を行っている。 ・トイレや手洗い場は特にきれいに拭き掃除をしている。 ・定期的に専門業者による清掃を加えている。 	
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・勤務形態にかかわらず、参画できる複数の会議やミーティングがある。 	
	6	ご家族向け評価表により、ご家族などに対して事業所の評価を実施するとともに、ご家族等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・開園して初めてのアンケートを今回実施した。 ・今後、会議等を持ち、業務改善につなげる。(今回は、ご家族からの評価をいただき、感謝の気持ちとさらなるやりがいにつながった) 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
業務改善	7	事業所向け自己評価表及びご家族向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		・開園して初めてのアンケートを今回実施した。	・今後、ご家族への配布と法人ホームページでの公開を予定している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		・第三者による外部評価を行っている。 ・こども支援に関わる行政機関や医療機関、大学機関などの職員の方の見学を積極的にお受けし、率直な感想をいただいている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・事業に関する全国研修、地域研修に加え、専門資格に関する研修への参加を計画的に行っている。 ・研修に参加して自ら資質向上に努めている。 ・事業所内では、医師などの外部講師を招いての専門研修や所内研修を月に1回以上実施している。 ・多角的な視点からの研修が実施され、貴重な時間だと思う。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、こどもとご家族のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		・いろいろな視点からの意見を元に、計画を立てている。 ・施設見学時の様子や利用開始前の面接時にアセスメントを行い、ご家族のニーズもうかがった上で児童発達支援計画を作成している。また、相談支援専門員の方からの話をお聞きし、計画相談と相違がないように気をつけている。	
	11	こどもの発達や適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールや客観的な指標（資格保持）があるか	○		・標準化された発達検査や心理検査、アセスメントツールを参考にしつつ、日常の様子や行動と合わせて共通理解している。 ・本当に専門的な説明は、わかりやすい説明だと感じる。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		・児童発達支援計画書には、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」ごとの支援内容を具体的に記載している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		・療育中は、児童発達支援計画にそって、こどもへのかかわり方や声かけをし、その支援の内容や意味をご家族へ説明している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		・安全に配慮し、こどもの状況や天候、季節に合わせた教材を支援者が話し合っ て決める。 ・活動の方針から具体的な内容まで、チームで話し合いを重ねている。	
15	療育の積み重ねを基盤にしつつ、活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・こどもの自己選択や自己決定を大事にしつつ、経験が積み重ねられ、広がるよう に提案している。 ・発達段階や状況に合わせて、活動の内容を工夫している。 ・常に、こども自身や支援者の誰かから、どこかから、新しい発想が生まれてい る。	
16	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		・こどものアセスメントの結果を分析し、どのような活動(組み合わせ)がより発 達段階や状況に合っているかを提案し、最終的には会議にかけて作成してい る。	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・バスの送迎支援開始前、こどもの園内受け入れ開始前にミーティングを行い、 支援内容や役割分担の確認を行う。 ・ホワイトボードなどで常に再確認できるしくみがある。 ・朝のミーティングでは、本日利用することも及びご家族の体調を含めて確認し た後に、天候や気温の変化も考慮して、支援内容や役割を確認する。	・朝のミーティング内容を簡潔にノートに記載し、参加していない職員が見て もすぐに情報共有できるようにする。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・療育体制に関すること、危機管理に関すること、療育上のこと、明日のことなど を毎日振り返っている。必要なことを相談している。 ・短時間でありながら、とても内容の濃いミーティングとなるように一人一人が話 し方や内容を精査している。 ・支援終了後の会議を生かすことが重要だという感覚を常に共通理解してい る。	・当日の会議に参加していない職員にもわかりやすいように記録し、重要事 項は、直接報告する。報告を受けた職員は、共通理解したことを記録や認め 印で残す。
19	日々の支援に関して重要な部分を記録に残し、支援の検証・改善につなげているか	○		・全員の記録をし、困ったことは、その日に相談するようにしている。 ・記載漏れがないかなどの確認作業も計画的に行っている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・ガイドラインに基づいてモニタリングを行い、定期的に職員会議を開き見直し を検討している。	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にそのこどもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		・そのこどものことを理解し支援している療育クラス主任や児童発達支援管理 責任者が参画している。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		・保健センターでの親子教室や子育て支援の関係者の見学を受け入れるなど、 連携している。 ・こどもが暮らしている地域の保健師さん、市の各課の職員の方々には、こども たちやご家族の変化を見ていただくこともあり、相談させていただいている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
関係機関や保護者との連携	23	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・並行通園のこどもたちの園とは、情報共有のための会議や日々の直接のコミュニケーションに努めている。 ・移行支援として、情報提供書などの作成を行っている。 	
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援として、情報提供書、療育要録の作成、連絡会の準備を行っている。 	
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童発達支援センターから講師に来ていただく研修を職員全体研修としたり、地域で開催される研修に参加して、復命研修を行ったりしている。 ・復命研修は、全体にわかりやすくフィードバックする機会となっている。 	
	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、地域の園の見学や研修に積極的に参加している。 ・通園しているこどもは、ご家族に同伴している他のきょうだいと日々交流がある。 ・きょうだいに参加する行事がある。 ・並行通園のこどもには、こどもが暮らす地域の幼稚園や保育園の利用(一時保育含む)を積極的にすすめ、地域での暮らしに徐々に移行する準備をする。 ・単独通園のこどもが事業所として他の園と交流する機会は作っていない。通園当初は、ご家族に様々な心情があり、実際にご家族から交流のニーズがないため、積極的には取り入れていない。 ・こども自身の様子や心理的状况により、実施の方法や時期に配慮が必要な場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブの理念はもちつつ、それぞれのご家族とともに、移行の時期や方法を判断し、安心して地域での暮らしにつなげたい。
	27	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、参加できるような体制を組んでいる。参加できなかった場合にも内容を確認できるようにしている。 	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳を活用したり、送迎時にこどもの様子を伝えたりしている。 ・登園時、療育中、降園時、こどもたちの様子やかかわり方などをお伝えし、こどものことを共に肯定的に理解している。 	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・家族通園(母、父、祖母、母のきょうだいなど暮らしの基盤となる家族)を行い、能動的にこどもへのかかわり方を学ぶ仕組みを作っている。 ・家族の交流の会やグループワークの機会がある。 ・ご家族の不安や悩みを聴き、よりよい暮らしになることを意識している。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		・入園の際に、施設長や児童発達管理責任者から説明させていただいている。	
	31	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		・同意を得ることはもちろん、日々の活動の具体的な場面を通して、わかりやすく説明する機会をもち、安心していただけるよう工夫している。 ・説明しながらご家族と内容を確認し、疑問点や不明な点をその場で十分にお聴きすることが大切だと思う。その上で、同意をいただいている。	
	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		・ご家庭へ出向いて相談をお受けしたり、日ごろから話していただきやすい雰囲気づくりを心がけている。 ・「事業所内相談」や「家庭連携」はもちろん、電話での対応を含め、傾聴することを意識している。	
	33	家族の会などを開催したり、グループワークを実施するなど、ご家族同士の連携を支援しているか	○		・家族が交流することで、ピアサポート的な関係が生まれている。	・今後、卒園した家族と在園家族との交流の場を設定したい。
	34	こどもやご家族からの相談や申入れについて対応する体制を整備し、こどもやご家族に周知した上で、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		・面接のご希望がある場合は、少しでも一旦不安が軽減するように、その日に日程調整を行うか、もしくは調整に必要な時間の見通しを示す。	
	35	定期的に会報などを発行し、活動の概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもやご家族に発信しているか	○		・法人から発行されている会報にかおるおからのメッセージを載せている。 ・行事の日程については、その都度、お便りで知らせている。	・行事の日程に関しては、できる限り早く書面にて知らせよう努める。
	36	個人情報の保管場所を定めるなど、個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		・個人記録ファイルやUSBなどの個人情報に関する物の管理は、管理担当者を定め、一定の場所で使用し、かつ、鍵のついている棚で保管している。 ・常に支援者の目の届く安全な場所で使用し、使用時間も定めている。	
	37	通園しているこどもやご家族との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		・面接や電話（通話、ショートメール含む）、連絡帳やお便りなどを使用している。	
38	地域の方々との温かく心地よい交流ができ、開かれた事業所運営を図っているか	○		・地域の方々からは開園当初より温かい励ましの言葉をいただいている。 ・朝は挨拶を交わし、会話をしながら同じ時間帯に掃除をすることが多い。 ・季節の草花をこどもたちが楽しめるように届けてくださる方もいます。 ・天候の様子を事前に教えてくださり、こどもたちやご家族、職員の安全を見守っていただいている。	・地域の自治会長、班長をはじめ近隣の方々がとても温かく、ご理解くださっている。今後も、地域の行事や会報等を通して、交流を大切にしていきたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
非常時などの対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員やご家族に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、座学とシュミレーションでの職員研修を行うことで共通理解を深めている。 ・マニュアルを整理して、ご家族内でも取り組めるように、それぞれの家族に合わせて個別に伝えている。 	
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回、避難訓練の計画を立てている。実際には、療育を積み重ねた段階で、順次避難訓練に参加している状況。 ・実施後は、降園時や連絡帳を通して、ご家族に説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練実施に関する内容については、全体に実施の内容が同様に伝わる工夫、特に書面でお知らせする。
	41	通園開始時に、服薬や予防接種、てんかん発作などのこどもの状況を確認しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・通園開始前に、児童発達管理責任者や看護師がこどもの状況の細やかな聞き取りを行う。必要書類を提出していただく。 ・通園開始後は、日常での変化に気づきやすい療育クラス主任が主に確認を行い、上司や看護師とともに情報を追加する。 ・てんかん発作の既往がある場合は、定期的に検温して記録している。 ・ご家族へは、療育に関する医師の意見書の提出をお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独での通園へ移行するときには、主治医などのご意見を書面にて提出いただく。さらに、一人ひとりの状況に応じた細やかな対応について、ご家族とともに確認する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に詳細なアンケートを取り、医師の指示書に基づき、給食では除去食もしくは代替食を提供している。 	
	43	ヒヤリハット事例集の作成や非常時対応の研修を行い、共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの事例報告書を作成している。 ・非常時対応の研修は実施しているが、非常時にも様々な設定があり、その都度難しい判断を求められることから、引き続き、研修を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に外部および内部での研修を積み、職員全体で情報を共有する。
	44	虐待防止の研修や療育方法に関する研修を常に行い、日々適切な対応をしているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止の研修に参加して、復命研修を行っている。 ・日常的に対応について上司や同僚に相談している。 ・常に、ご家族と一緒に暮らしている療育空間なので、いい意味での緊張はある。虐待防止の意識は、ご家族といっしょに高めている。 ・常に、チームアプローチの仕組みがあるので、上司や同僚に自分の言動を見てもらい、率直な感想をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に「気になること」が隠れていないかを意識する。小さなサインでも必ず相談し、チームで対応する。
45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得ているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・療育中の対応（特に入園初期に行動の激しさが顕著な場合や情緒的な配慮が必要な場合）を日々話し合っている。 ・クールダウンの必要性や命の安全について、基本的な研修を繰り返している。 		